

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・1年

氏 名: 岡田 秀斗

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修を通じて、自分自身がこれまで生活して無関心・無意識であったことに対して改めて考えていくことの重要性、また自分自身の意思をしっかりと持ち、行動していかなくてはならないと感じる事ができた貴重な経験となりました。</p> <p>これらのことを思うようになった大きな要因はタイの政治システムに衝撃を受けたことです。タイは現在軍事政権であり、日本と同じ民主主義であるはずであるのに実際行われていること、起きていることは非常に異なる面が多いといった印象を受けました。特に印象的だったことが、2010年に起こった政治動乱の跡を巡った際に実際にその場で銃撃戦が起こり、多くに人々が血を流していたという事実を当時の写真を見ながら回ったということです。2010年にそのような悲惨な出来事があったとは思えないほど街は発展していて何も知らずにタイに旅行で行っただけならば何も思わないかもしれないが、その地の背景を知った上だと街が全く違ったように見えました。</p> <p>もう一つ、印象を受けたのが、1973年10月14日事件と1976年10月6日事件です。これらの出来事はタイの学生運動で自分と同年代の学生が多く命を奪われました。しかし日本の学生運動との違いは、どちらの事件もモニュメントやその当時の出来事を伝える場所があるということです。同年代の人々が政治へ自分たちの意思を行動で示していたことが直接的に伝わり、これまでの自分自身とは正反対であったこともあり、非常に印象的でした。それと同時に日本との違いに違和感を覚えました。実際に過去にどのようなことが起きていたのかを理解することは生活していく上で非常に大切だと改めて感じました。今回の研修で交流させていただいた方々のタイの政治や社会状況の改善などに対する思いや活動を聞いたことで自分自身の物事の見え方を変えようと思ったきっかけになりました。具体的には20代半ばの人たちがタイの若者がこれまでの教育環境や当たり前だと思っていたことが本当に正しいのかを考える機会をつくるという活動を芸術や政策を通しておこなっているそうです。ここでの経験で積極性や政治への参加意識の欠如を身をもって感じました。</p> <p>今回の研修で貧困についても感じるがありました。チェンマイ、パッタヤー、バンコクの3か所を訪問してそれぞれ違った視点から貧困について考えることができました。バンコクで高層ビルが立ち並んでいる中でそのすぐ下にスラム街が存在していたことや屋台が立ち並ぶなかで手足のない人や子供を連れた物乞いが何人もいたのだが、彼らの地位が宗教的な輪廻転生として考えられているということが日本では考えられないことで非常に衝撃的でした。味の素工場の見学でのお話ではその工場働くパートの人の日給約960円で12時間労働をしているとのことで日本で生活してきた自分自身にとってはとても考えられなかったです。また現地での日本人の職員と現地の職員との給料に大きな差があるという事実を知り、複雑な気持ちになりました。しかし、このように東南アジアの実態を知ることができたのは貴重な経験だったのではないかと思います。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・1年

氏 名: 岡田 秀斗

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>また自分自身の専門分野に視点を置き、タイでのインフラ事情にも目を向けても研修に参加していました。実際、発展途上国ということもあり、街を歩いていても下水のにおいが充満していることや河川にゴミが多く捨ててあるといったような多くの課題が見えた一方で、日本にはない海外ならではの地形を生かした河川運搬や水上バスの運行など、貴重な経験が出来て非常に有意義な時間を過ごせたと思います。今回の研修を通じて新たな発見がいくつもありました。政治への関心を常に持つこと、自分の意思を伝えることが苦手であるため、しっかりと頭の中を整理していくこと、どんな物事にも自分自身の考えをしっかりと持った上で扱っていくこと、今回の研修で感じたことを忘れずに日々努力していきたいと思っています。</p>	
〔研修後の抱負〕	
<p>今回の研修を通して、自分自身の知識不足な面が多くあったと感じた。これまで政治や社会状況などに関するニュースや新聞に興味を持って見るのがなく、また本を読むこともほぼなかったため今後、自ら様々な情報を積極的に取り入れていこうと思う。また発表やディスカッションの際に積極的に自分の考えを言うことが苦手であるということを改めて感じた。まずは、しっかりと考えを整理して他人に伝える努力をしていこうと思う。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・1年

氏 名: 山田 響己

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修でタイの文化、歴史、政治などを通じて、私たち日本人、あるいは私自身の現状や課題に気付くことが多く、様々な経験をしながら自分の中にあった考え方や価値観が変わっていった。特に政治についての考え方は今回の研修で大きく変わった。現在タイではクーデターを繰り返し、政治が不安定な状況のため、若者が社会を変えようとする動きがある。</p> <p>研修では「新しい未来の党」という民主主義を目指している政党の方々に話を伺う機会があった。この党では若者が活躍しており、彼らは大学時代に政治を専攻して学んでいたわけではなく、様々な学部から今の政治に危機感をもってこの党で働いているようだ。また、タイでは昔から学生運動が行われることが多く、若者が政治にかかわることが多い。タイを見ると今の日本の若者は政治に対する意識が低いと感じた。実際、選挙の若者の投票率が低いことや身の回りの友達を見ると政治への意識が低いということは間違っていないと思う。私も研修に参加する前まで政治に全く関心がなく、自分には関係ない話と思っていた。しかし、それは違って、政治は私の身の回りに大きく影響しており、政治が私たちの生活の土台をつくっていると気がついた。しかし私たちは政治が自分から遠いものだと切り離して、民主主義のもとで常に一人ひとりに社会を変えることができる権利を持っているということに気づいていないように感じる。研修を通して、政治の大切さを感じるとともに今後日本の政治や政治への意識が良い方向に走るためにはどうしていきべきなのかと考えるようになった。</p> <p>また、今回初めて海外に行き、異文化理解について考えるきっかけになった。日本では食べられないようなものを食べたり、交通ルールが日本とは違ったりと異国の文化に触れることは面白いと感じた。しかし、異国について知っておかなければ時に相手を傷つけてしまったり、その国で罪を犯してしまうことがあるということを知った。タイのアユタヤというところにある遺跡で日本人観光客が頭部の破壊された仏像に自分の顔を出して、正面から写真を撮ることがあるという。この行為がタイの人々にとっても不愉快な気持ちにさせてしまうそうだ。悪意がなくても歴史や宗教や文化の背景を知らないと無意識にその国の人々を傷つけてしまう。だからこそ異文化を理解するということはおもしろいことでもあり、お互いが共存していくには欠かせないことであると感じた。</p> <p>さらに、タイに行くことによって自分の中での宗教のイメージが変わった。私が日本で暮らす中で宗教を意識することがなかったせいか、タイでは生活の中で宗教の存在がとても大きいように感じた。タイでは宗教の自由が認められているが、仏教徒が大半を占め、その多くが上座部仏教を信仰している。上座部仏教では一般の男性は一生に一度出家しなければならない。そして、仏教には温情主義という考え方があり、タイではこの考え方が日常生活に浸透している。たとえばタイの国民は国王を父として位置づけ、国王に対し慈悲を請う。また、タイの大学では上下関係が強かったりと温情主義の考え方がいたるところで見られ</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・1年

氏 名: 山田 響己

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
る。宗教の考え方が国民性を形作っているように感じ、とても興味深かった。このように宗教の影響力は想像以上に大きく、これから私が生きていく中で宗教的な観点からも物事を考えていけるようになりたいと思った。	
〔研修後の抱負〕 研修を終えてこれから取り組みたいと思うことが主に3つある。一つは理系分野だけでなく、文系分野の学習もすることだ。今回、社会や政治、異文化についてたくさん学んで、理系でも文系分野の勉強の必要性を感じたからだ。 二つ目は英語力をつける事だ。英語ができなくても、コミュニケーションをとろうとすることはできるが、研修中伝えたいことを的確に伝えることができず悔しいと思うことがあった。 そして三つ目は多方向から物事を見ようとする事である。批判的思考を常に持つようにすること、目に見えないことを見ようとする事を意識してこれから過ごしていきたい。	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 農学部・1年

氏 名: 勝濱 直椰

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>本研修は、キャリア選択の上での一つの指針となった。</p> <p>将来は、農学を用いて新興国の食料・政治問題の解決に取り組みたい。その際、育種や栽培技術開発から食料資源の配分や政治・経済まで多様なアプローチが考えられる。タイは土地が豊かであることから食料が豊富であるという。実際、バンコク郊外には広大な米作地帯やココヤシ農園が広がり、市場は新鮮な青果や魚介類であふれていた。豊かな食料がある一方、食の安全性の低さや政治的な不安定さなど社会的な問題は多い。都市部と農村部の所得格差は大きく、最貧困層は物乞いによってその日の食事を得ている状態だという。そのうえ、2010年以降軍事政権下にあり自由な発言や活動が許可されていない。これは、食料が十分なだけでは安定した社会が実現できないことを表している。このことから、発展途上国の食料・政治問題の解決には食料の生産技術はもちろん、必要に応じた生産物の配分システムの開発など社会面からのアプローチも必須であることを感じた。</p> <p>研究者や技術者、活動家や政治家、市民や学生など様々な立場から社会問題の解決に取り組んでいる方々とお会いできたことも本研修での大きな成果だ。本プログラムは他の研修とは異なり彼らとの交流を中心に計画されているため、日本語メディアでは手に入らない新鮮で最先端の情報と接することができた。日本では微笑みの国というイメージが広く持たれているタイにおいて、国民を二分化する対立が続き市内で多数の死傷者が出ている状態に衝撃を受けた。衝突の発生した地点をめぐり、その場にいた市民から当時の話を伺えたことは研修に参加しなければ得ることのできなかつた成果だ。制限された民主主義下に置かれた彼らの政治に対する意欲は強く、私たちがいかに恵まれている環境に甘んじていたのかを認識した。政治はどこか遠くのものであるように感じていたが、研修参加後は自分たちの暮らしを決定する身近なものであるという見方をするようになった。加えて、学生や市民、政治家と立場の違いによって、社会の認識や何を正解とするかが異なり、それによって生じる対立の解決の困難さを実感した。物事には二面性があり、私たちの信じているものだけが常に正解ではなく、多数派の利益を通すことで取り残される人々がいる事実を痛感した。</p> <p>私は将来の目標について漠然とした計画しか立てられていなかったが、自分の目で現場を見て第一線で活躍されている方々と出会えたことで、自身のキャリアについてより具体的なイメージを抱くにいった。さらに、目標達成のアプローチを決定する際の選択肢を増やすことができた。世界で広く活動するうえで必要となる国際性、世界観構築の糧にできたと自負する。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 農学部・1年

氏 名: 勝濱 直椰

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
〔研修後の抱負〕 本研修中の経験や学びを生かして将来のキャリア設計を行いたい。 研修を通じて、食料・政治問題の解決には食料の生産技術だけでなく、生産物の配分システム開発など社会面からのアプローチも必須であることを感じた。加えて、公-私や全体-個人といった立場の違いによって何を正解とするかが異なり、それによって生じる対立の解決の困難さを実感した。 将来は、農学の専門知識を用いて新興国の発展と安定の実現、そしてそれらの国々と日本との橋渡しを行いたい。農学には、生産から消費まで、自然科学から人文・社会科学までの幅広い学問分野が含まれる。研修での学びを踏まえ、専門分野や進路の選択の際は、特定の分野にとらわれない学際的な活動を行いたい。さらに、専門や社会的立場が定まった後も、他分野や他の主義主張をも考えに含めた柔軟性を身に着けたい。	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・2年

氏 名: 岩切 真里奈

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回タイ研修に参加し、タイの文化、歴史、政治はもちろん体験し学ぶことができた。それに加え、人としても成長できたとかんじている。</p> <p>私は海外に行くのは初めての経験で、見るものすべてがとても新鮮であった。しかももともと英語ができるわけでもなく、さらにタイはタイ語があり、タイ語を読むことは全くできなかった。到着してすぐの空港ではもう何もわからないし、言葉は通じないし、焦ったのを覚えている。それでも慣れるというか、自分の理解能力があがったのかはわからないが、研修の後半では文字は読めなくてもなんとなくわかるようになっていた。これは言葉も同じで、はじめの方は私も不安で自信もなく、誤魔化しながらゴニョゴニョ話していたが、最後のほうになると恥ずかしさもなくなって、とりあえず伝わるように、伝えたい、という気持ちになっていた。特に英語力があがったとは思わないが、それでも現地の人とコミュニケーションをとることができるようになった。研修中、先生もおっしゃっていたが、自分の技術や恥をどうこうしようよりも、伝えたい、話したい、という気持ちが本当に大事であるということをかんじた。</p> <p>研修で最も学んだということは、やはりタイの歴史、政治のことである。私は歴史も政治も得意な科目ではなくて、そこまで興味もなかった。日本のこともあまり知らないのに、タイのことを理解できるのかと思った。しかし、研修で実際のある場所に行って、先生から詳しいお話を聞いて、自分の考え、他のメンバーの考えをきいて、またさらに深く考えた。タイの新しい政党の人たちに会うという、とても貴重な経験もできた。日本ではそんな真面目に政治の話やこれからの未来の話をするとはなかった。けれど、その人たちは考え、自ら行動していて感銘をうけた。自分たちの未来であるはずなのに、当事者の私たちが考えていないのはおかしいと思うことができた。</p> <p>もうひとつ印象に残ったことは、チェンマイ大学とブーラパー大学との交流である。どちらの大学の学生もとても良くしてくれて、楽しかった。チェンマイ大学では、あらかじめ作っていた鹿児島の紹介のプレゼンをした。みんな興味を持って聞いてくれて、特に方言の紹介をしたときに独特なイントネーションに驚いていて、とても盛り上がった。そのあと、百人一首をしようと言われてみんなでした。彼らの人懐っこさに非常に驚いた。私自身、初対面の人とそんなに盛り上がるのは苦手なほうだったが、この研修でのこのような色んな人との交流を通じて、自ら発言したり、発案したり、積極的に関わりをもつようになるようになった。ブーラパー大学では、お互いの生活や楽しいこと、家族の話や、やりたいこと、考え方の違いまで、色んなことを話すことができた。海外に友達ができただけがとても嬉しかった。この学生もチェンマイ大学の学生と同様に人懐っこく、最後はみんなでゲームをした。このような、ただの談話や遊びから学ぶ文化の違いも面白かった。</p> <p>研修全体を通して、私が得たもので一番大きかったと言えるものは、難しいことでも考えるという感覚を得たことと、自分の考えはとりあえず言葉にしてみるということである。この研修でタイの政治、歴史を学んだが、そこを通して日本のこと、私たちのことも考えた。これま</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・2年

氏 名: 岩切 真里奈

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
では深く考えることをしてこなかった部分をみんなで考える、結論は急がなくても、考え続けようという感覚を知ることができた。また、自分のことをはっきり言葉にしないと伝わらないというのは研修ではさらに強く感じる事ができて、それを実践することができるようになった。	
〔研修後の抱負〕 英語はあるていど話せたほうがやはり楽しいと感じたので、まずはボキャブラリーを増やしたい。それから、先ほど述べた、考える感覚は今後も大切にしていきたいし、考え続けたい。自分を発信するという楽しさも忘れずに色々な所で生かしていきたい。もっといろんな国をみてみたくなったので、今後も海外にいける機会を探したい。	



## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 工学部・2年

氏 名: 原田 柚香

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私が研修を通して強く思ったことは、私や若い人、また日本人全員もっと日本の貧困や政治について考えるべきであることだ。</p> <p>フィールドワークする中で、先生にタイの政治や歴史について学んだ。赤い色のタクシン派、黄色い色の軍事派、その二つの派で争い、デモやクーデターが起きていた。また学生運動も盛んに行われていた。私が高校生までに習った歴史は一年に一年が起こったなど出来事を覚えるだけであった。しかし、この研修では、どうしてこういう出来事が起こったのかなど詳しく学んだ。また、研修中にも自分たちが利用していた駅の近くでデモ行進があった。物乞いの人もみかけた。日本で、見たことがない光景だったので非常に恐ろしいと思った。だから、どうしてデモがあるのかなどより深く考えるようになった。研修中に日本の政治や貧困についてメンバーと話したり意見を出し合い考えたことがあった。全て理解できたというわけではないが、今の日本の政治の現状は良くないのではないかと思うようになった。また、新しい未来の党という新しい政党の人たちにも会った。彼らは私たちと同じぐらいの歳であるが、今のタイのタクシン派、軍事派をかえるために、実際に行動に移して驚いた。様々な考えや生き立ち、学歴を持っている人たちがメンバーである。日本の政治について話したり、新しい未来の党の人たちに話を聞き、理系だから政治のことは、考えなくて良いなどということとは違うと思った。また他人事ではなく自分の考えるべきこととして認識しなければいけないと思った。</p> <p>次に、今回の研修を通して、少し海外で働いてみたいと思うようになった。今回の研修では交流したブーラパー大学とチェンマイ大学の生徒は日本語学科の生徒で、先生が料理の注文などしてくれたので研修が滞りなく進んだ。しかし、日本語を知らない人たちと働くとなると世界中知っている英語を知っていないと生きていけない。日本で働くにしてもこれからは、外国人と働くことが増えると思う。また自由行動などのふとした時に、もっと英語力があればと思うことがあった。日本に来てくれた外国人にも英語で流暢に話せるようになればいろいろと助けることができると思った。毎日は無理だが、少しずつでもいいから英語の勉強をしていきたい。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>政治や日本のことを知るために、朝、ご飯を食べる時に、ニュースを毎日見る。新聞を毎日読む。TOEICなどの勉強をし語学力をあげる。英語を今回の研修で使う時に、単語がすぐに出てこなかったのが、単語をたくさん暗記する。また、一回で聞き取れないことがあったので、リスニングの勉強もする。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 楠本 悠河

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私にとって今回のタイ研修は初めての海外渡航であった。申し込んだ当初はタイの研修に参加することに格別の思いは何もなかった。大学生になったし、どこでもいいから海外に行ってみたいという軽い気持ちで応募した。事前学習としてタイの政治や文化を多少勉強した。しかし実際に行って自分の目で見た景色や感じた思いは、本や先生から得た知識よりも何十倍も鮮やかに残っている。当たり前だが日本と違うことが多すぎて体験すること全てが新鮮だった。</p> <p>今回の研修は社会システム、政策研究ということで主にタイの政治について学んだ。まずタイは軍事政権であるため、選挙が2011年以来行われていない。政府が国民に干渉するのが当たり前だといった風潮もある。そのような事態に対抗する人々に今回の研修ではお会いする機会が何回かあった。そういう人たちと話していると自分がいかに政治や社会について無関心なのか思い知らされた。選挙ができること、自分の意見が自由に述べられることは当たり前だけど幸せなことなのかもしれないと思った。自分たちの世の中を良くしようと必死に頑張っている人たちと交流する中で、政治についてはよくわからないから考えなくてもよいという考えではダメだと強く思った。</p> <p>また研修ではチェンマイ大学とブーラパー大学の日本学科の学生と交流した。とても緊張したが学生たちは皆、初めて会ったとは思えないほど私たちが温かく迎えてくれた。彼らは皆、自分の将来への目標に向かって懸命に努力していた。日々の勉強も必死に頑張っていた。私も負けないうらい努力して少しでも将来の夢に近づけるよう頑張ろうと思えた。約2週間の研修はただ楽しいというだけでなく、自分のこと、将来のこと、社会のことなど様々なことを深く考えるきっかけとなり大変貴重な経験ができた。これからもこのタイ研修で感じた思いを忘れず、日常生活を大切に過ごしたいと思う。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今後は自分の専門分野はもちろん、様々な分野に興味を持ち知識を深めたい。いろいろな地域の人ともっと話してみたいのでコミュニケーションスキルも身に付けたい。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・4年

氏 名: 平田 葵咲

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回のタイ研修で得たものは、「社会と自分の繋がりを意識すること」です。一見あたりまえのことに感じますが、私は生まれてから約22年の間、自分が受けてきた教育に特に疑問を持つこともなく、自分の社会的立ち位置を意識することもなく、社会の流れのままなんとなく過ごしてきました。また、政治というものにも全く無関心であり、なぜ自分が無関心なのか考えることすらありませんでした。今回の研修ではタイ社会の政治状況を学び、政治が、教育・労働状況・地域格差・宗教など個人の人生に関わるものとのように繋がっているのかを認識しました。タイの社会状況(軍事政権下・地域格差・貧困問題・教育問題・表現の制限)の問題を現地の人と意見交換するうちにタイの社会システムを肌で感じ、理解することに繋がりました。そして、タイの社会状況を学ぶことで、日本の社会状況を学ぶことの重要性を気づかせてくれました。</p> <p>今回特に印象に残ったのは、「Future Forward Party」という政党へのインタビューです。タイは現在軍事政権下にあり、最後に行われた選挙は2011年です。来年2019年の2月に8年ぶりに選挙が行われる予定です。そこで、タイ社会を変えようと2018年3月にこの「Future Forward Party」という新しい政党が結成されました。実際に活動している人とお会いすると、年は20代から30代の若い方が多く、中には自分と同年の方もありました。彼らは、政治対立やクーデターで大勢の一般市民が亡くなったことをきっかけに、タイの社会システム(受けてきた教育方針や福祉制度など)に疑問を持つようになったそうです。確かに政治を巡る争いで人が死ぬというのは、自分の社会に対する見方を変える大きなきっかけにはなりますが、同年代の人が自分の国を変えようと必死に行動しているという事実は非常に衝撃的であり、それと比較し自国の社会のことを何も知らない自分が浮き彫りになりました。更に問題なのは、「なぜ今まで政治に対して無関心であったのか？」を深く考えたことがなかったということです。私自身、政治に対して、難しいしよく分からないからと避けてきましたが、「ではなぜ私は政治に対して拒否感を抱くのか？」と改めて考えたとき、それは性格的なものだけではなく、政治から遠ざけられてきた環境が少なからず当てはまるのではないかと感じています。</p> <p>政党へのインタビューだけでなく、タイ社会の現状を意識して行った学生交流や日系企業訪問、活動家の方へのインタビュー、街中の観察は、自分の社会を見る視点が変化したという点で非常に刺激的なものばかりだったと感じます。そしてタイの社会システムを日本と自分に置きかえて考えたとき、「社会と自分の繋がりを強く感じ、政治や社会情勢に関心を持つことなく過ごしてきたことは非常に人任せであり、社会に対しても自分自身に対しても無責任であることに気づきました。特に、何か社会のために大きな行動を起こしたいというわけではありませんが、まずは、一国民として国の方針には耳を傾け、情報収集し、自分の意見を持つこと、そして、それを示す必要があると感じています。</p>	

## 平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・4年

氏 名: 平田 葵咲

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)
研修先(国・地域) 滞在地	チェンマイ大学、ブーラパー大学 他(タイ・チェンマイ、パッタヤー、バンコク)
研修期間	平成30年9月16日～平成30年9月28日
〔研修後の抱負〕 今回の研修で、日本の政治状況や国の方針に対しての知識不足を実感したので、これからは社会状況を理解するための情報を積極的に取り入れ、社会を様々な視点から把握できるよう努力したいです。そして、政治状況だけに関わらず、自分の置かれている環境や、自分が常日頃考えていることには疑問を持つことを習慣づけていきたいと思います。また、今回は取り上げませんでしたが、タイの方と英語を使って会話した際、自分の英語力のなさと、英語が世界共通語ということを改めて痛いほど感じました。英語はできて当たり前の世界になってきていると思うので、必死に勉強します。	